

# 水仙に雨のひらがな降る日かな

藤田湘子

句集『前夜』所収。教えられるまでほとんど気にも止めていなかった句である。しかし、「雨のひらがな降る日」とは、なんと叙情的な表現だろう。

藤田湘子の詩心の根幹には、振り払えど振り払えどこの叙情性が纏わり付いて、一見女性が詠んだ句ではないかと錯覚させられることもある。普段は大胆な男ぶりが強く出ていたが、心底は実に繊細であった。

「平仮名」と言えば紀貫之の『土佐日記』の冒頭、「を」とこもすなるにきといふものを、をむなもしてみむとてするなり」が思い出される。土佐で失った幼女への貫之の想いと、水仙に降る雨がどこか似ている。

早梅やひらがなの名の吾子ふたり 湘子

1990年（H2作）第九句集『前夜』 鑑賞・轍郁摩